

防衛費のリアル(2) 時代の気分

今回は防衛費と GDP 比の推移をグラフで見た上で、国家予算に占める防衛費の規模感を俯瞰しました。長らく GDP 比1%を律儀に守ってきたのに、2019 年のトランプ～安倍会談での兵器ローンをきっかけに、防衛費が急増する様子が見て取れました。急増する防衛費5兆➡8兆➡13兆は、医療費12兆や教育・科学振興費5兆、公共工事費6兆をも上回る規模で、それらを削っても足りず、増税も不可避なこと、「鎧・兜ばかり強くして、国民は疲弊、一体何を守るつもりなの？」という疑問が残りました。

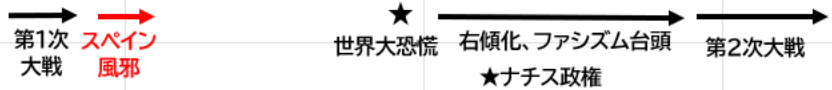

にも拘らず、多くの国民は、「我が国を取り巻く安全保障環境が年々、厳しくなっているので、ある程度の軍拡は仕方がないか」と感じているようです。そこで、今回は、防衛費の急増に対する国民の受け留めについて考えてみましょう。論点は2つあります。一つは「時代の気分」、二つ目は「安全保障環境の実態」です。

まず、「時代の気分」ですが、20世紀と21世紀の初頭の出来事が参考になります。下表で、スペイン風邪と新型コロナを対比してみました。

表 新型コロナとスペイン風邪の比較 (出典:Coronaboard)						
	流行期間		人口	陽性者数	死者数	致死率
スペイン風邪 (新型インフル)	1918～ 1920	世界	20億	5億人	0.5～1億人	10～20%
		日本	0.6億	0.24億人	40万人	1.6%
新型 コロナ	2020～ 2022	世界	80億	8億人	800万人	1%
		日本	1.2億	0.4億人	8万人	0.2%
		米国	3.4億	1.1億人	120万人	1.1%

いずれも数年に渡ってパンデミックが続き、多くの人々が感染し、亡くなりました。100年前に比べると、致死率が1/10以下に抑えられたのは、医療の進歩のお蔭です。何しろ、100年前は、ウイルスの解析どころか、観察する電子顕微鏡もなかったのですから。しかし、それでも今回も人々はパニックに陥りました。スペイン風邪の経験者は皆無で、本格的パンデミックは誰にとっても初体験、医療のひっ迫、ロックダウン(都市封鎖)、経済の落ち込みなどで、人々は不安にさいなまれました。

次に、2つのパンデミック後の世情について対比してみます。

	1910年代	1920年代	1930年代	1940年代
20世紀前半				
	2010年代	2020年代	2030年代	2040年代
21世紀前半				

20世紀前半、スペイン風邪後の不安な世情は、世界大恐慌で一気にスイッチが入り、人心が右傾化、満州事変（1931）から日中戦争突入、ナチスの政権獲得（1933）などファシズムが台頭しました。そうすると、あとは毒食わば皿まで、ホロコースト、原爆投下と、行き着くところまで行きました。

一方、21世紀の今日はどうでしょう？ 世界には4,000もの空港があり、一日平均10万便ものジェット機で人が行き交っています。便利だけに行き過ぎたグローバル社会が引き金となって、新型コロナも発生しました。急に窮屈になった先進各国では、自国第一や移民排斥など排外主義的な動きが加速、米国のトランプは元より、「リフォーム UK」、「フランス国民連合」、「ドイツのための選択肢」、「イタリアの同胞」が国民の支持を広げています。その背景には、100年前と同様、不安の心理が人を突き動かしているようです。人は不安になれば、壁を作りたがり、攻撃的になる生き物のようです。その結果、ヒステリックに軍拡し、安全の拠り所を求めますが、他国も負けじと軍拡し、一触即発のリスクが増大、ますます不安にさいなまれます。そして、不安になると扁桃体がぎんぎんに腫れ、自由闊達な対話ができなくなります。エーリッヒ・フロムの「自由からの逃走」が始まります。

各国で軍拡を容認する、あるいは、もてはやす世論には、行き過ぎたグローバル化の憂鬱と、それによってもたらされたパンデミックの「不安の心理」があるようです。時代の気分が背景なのでなかなか厄介ですが、パンデミックが前回の1/10で済んだのでファシズムへの傾倒も緩和されることを祈りたいです。今回は、もう一つの背景「安全保障環境の実態」について考えます。こちらは、軍需産業を中心に「安全保障環境がますます悪化している」という意図的な世論の醸成が行われているようです。（竹の台 西元）